



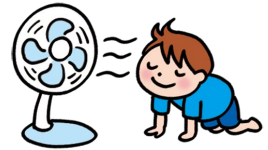
ほけんだより 8月号



令和2年8月
どりーむ保育園

猛暑が続いています。子どもたちは、暑さの中でも夢中になって遊ぶので、水分の補給には十分に気を配りましょう。また、米軍基地内での新型コロナウイルス感染拡大が問題となっており、県内では再び感染リスクが高まりつつある今日この頃です…。3密の空間を避ける等、それぞれができる感染予防を続け、コロナに負けず、健康で安全に過ごしていきましょう。

夏の日焼けにご用心！！



沖縄の紫外線は、全国最強！と、言われています。子どもたちから若いうちに紫外線を浴びた量が多いほど大人になって皮膚がんを発症するリスクが高くなると言われており、他にも目など体へ悪影響を及ぼすと言われています。



しかし、日光を浴びるとよくないと言って1日中部屋で過ごすことはできません。子どもにとって外遊びは大切です。上手に紫外線対策を行っていきましょう♪つばの広いフラップ付きの帽子や日焼け止めクリームを使用し、上手に対策を(*^_^*)！



溶連菌感染症

溶連菌(ようれんきん)感染症とは、溶血性連鎖球菌という細菌による感染症で、喉の痛みを伴う咽頭炎の2割程度がこの菌が原因と言われています。5~10歳くらいまでの子どもがかかりやすく、発熱で気付かれることが多く、咳やくしゃみなどでうつります。



2~5日の潜伏期間の後、喉の痛みや扁桃腺が腫れる症状から始まり、頭痛、体のだるさなど、かぜの症状と同時に38~39℃の高熱が出ます。発熱から2~3日経つと首や胸、手首、足首に粟粒状の発疹が現れて強いかゆみを伴いやがて全身に広がります。同時に舌にイチゴ状の小さくて赤いブツブツとした発疹が現れます。

溶連菌感染症と診断されたら、抗生物質を10日から2週間程服用します。早い時期から服用する程、治療効果があると言われていいます。発症から5日程経つと、熱も下がり、発疹や喉の痛みも治まります。予防には、手洗い・うがいが基本です。

熱がある時は、水分補給を十分に行いましょう。また、喉の痛みがあるため、熱い物や刺激物、柑橘系の果物は避けましょう。回復後、まれに急性腎炎やリウマチ熱にかかることがあります。症状が消えても、医師の指示があるまでは、薬の服用をやめないようにしましょう。※園へ治癒証明書の提出が必要です。

